

プログラム

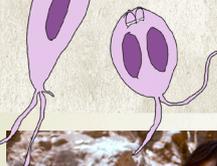
開催趣旨
病気と付き合うのはアフリカ研究者の宿命?
増田 研 (長崎大学)

顧みられない熱帯病って何?
森保 妙子 (長崎大学)

じわじわ蝕むブルーリ潰瘍
ベナンにおける患者の治療希求の事例より
猪狩 友美 (JICA セネガル事務所)

ウガンダ北部のうなづき症候群
紛争後の環境で起きたてんかん性脳症の流行
西 真如 (広島大学)

WITHOUT 感染症までの道のり
50年前の、天然痘撲滅プロジェクトの最前線
木村 英作 (長崎大学)
+増田 研、猪狩 友美、西 真如、森保 妙子



ゲスト
木村英作 愛知医科大学名誉教授/長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科客員教授

1946年、秋田県出身。寄生虫学者、医師、日本アフリカ学会会員。新潟大学医学部を卒業後、長崎大学熱帯医学研究所を経て、愛知県立医科大学教授。その後、大阪大学を経て、現在は再び長崎大学にて研究を続けている。熱研在職中の1973年、WHOが推進していた天然痘撲滅プログラムで、海外技術協力事業団(OTCA、現 JICA)の専門家としてエチオピアに派遣され、1年あまりに渡って北部山岳地域の村々を訪ねてワクチン接種に従事した。

2022年 **5月22日(日)**
13時30分-16時
入場無料

会場は長崎大学坂本キャンパスです。オンライン(ウェビナー)配信もします。どなたでもご参加・ご視聴できます。

日本アフリカ学会 第59回学術大会 公開シンポジウム

主催 日本アフリカ学会
共催 長崎大学熱帯医学研究所 長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科

会場(長崎大学坂本キャンパス、グローバルヘルス研究棟)での参加、もしくはオンラインでの配信視聴が選べます。申し込みが必要ですので、右のQRコードもしくは「日本アフリカ学会第59回学術大会」のサイトより申し込みをして下さい。

実行委員会: jaas2022nagasaki@gmail.com

顧みられない熱帯病の時代に 顧みられな るを

顧みられない熱帯病(NTDs)は、貧困層を中心に世界の約10億人を苦しめている20の疾患の総称です。そして、その重荷の半分はアフリカが背負っています。これらの疾患は、人々の日々の暮らしと密着して感染を広げます。また外からでは、その存在や苦しさに気付くことはありません。これが、「顧みられない」熱帯病といわれる所以です。新型コロナウイルス感染症が、あつという間に世界の関心をさらっていったしまったいま、地域に根差した研究を続けてきたアフリカ学会だからこそ語れる「顧みられない熱帯病」があります。「顧みられない熱帯病」を「顧みる」きっかけとなるシンポジウムを開催します。

